

礼拝さいこう

巻頭言

「礼拝」をたてあげるための学びあいの輪が広がって

（第11回全国礼拝音楽研修会報告）

教会音楽室長 江原美歌子

「礼拝」と銘打った「礼拝音楽研修会」は、「新生讃美歌」発刊直後たくさんの課題が与えられる中で、「礼拝」をたてあげることに参与していくために「礼拝」を共に学び合うことが示され開始された研修会で、今回で11回目を数えました。研修会ごとに連合や諸教会の課題や要望に聞き、対話を通してテーマがたてられ、「礼拝」の学びが継続されてきました。また、連盟の2011年からの中長期大綱「和解のつとめに仕える」、そして東日本大震災を通して「礼拝」の経験と再考があり、あらたに「礼拝」の学びが展開されています。

今回の研修会テーマは「礼拝に帰ろう」、主題聖句は詩編42編2節「涸れた谷に鹿が水を求めるように神よ、わたしの魂はあたなを求める」です。困難や不安、渇き疲れを覚える日々の中にあっても常に「礼拝」という帰る場があること、そして、他者の痛みを覚えつつ、共に礼拝する豊かさを再確認することを願ってテーマがたてられました。天候も守られ、「礼拝」の様々な課題を胸に、全国、九州各地から子どもから高齢者まで95名が阿蘇の山々を望む緑に囲まれた熊本愛泉教会に集められました。

基調講演では南小倉教会の谷本仰氏より、「礼拝は教会の顔となっているか？」との問いかけと、また、バプテストの「礼拝」への取り組みの具体例を南小倉教会の礼拝形成を通して語られ、諸教会がどのように「礼拝」と向き合っているかを振り返るときとなりました。また、「霊」を「息」としてたとえて、バイオリン演奏を交えながら他者の息遣いをも覚えあう礼拝体験を導いてくださいました。分科会では講師の先生方のリードにより、礼拝奉仕者へ学びと励ましをいただき、それぞれの場所での奉仕への思いが新たにされ、共に研修した子どもたちの賛美の歌声からも力と希望が与えられました。

派遣礼拝では、奏楽、聖歌隊の賛美と導きよって会衆賛美が捧げられ、詩編のみことばに宣教を通してあらたな思いをもって聞いていきました。また、応答賛美ではドボルザークの「新世界」の「家路」に乗せて「礼拝に帰ろう」の教会音楽専門委員会議の創作詞を、バイオリン、「キッズプレイズ」、「子どもの賛美」分科会参加者、会衆とメドレーで歌い、「礼拝に帰ろう」のテーマを分かち合い、1日の学びの感謝と礼拝に仕える思いを捧げる応答の時となりました。

帰ろう共に 礼拝に / 気づこう そこに あるめぐみ / 渇く心 注ぎ出し

祈るそばに 友がいる / 声と心 響かせて / 待ちのぞもう 主の救い

南九州連合の協力や多くの講師が九州からたてられたこと、また、2人の新しい礼拝音楽研修会の講師が与えられたことは大きな喜びであり、全国に音楽を通して捧げられている賜物の広がりがあることも確認させていただきました。2015年度がイースター主日から始まります。礼拝をたてあげる諸教会の取り組みがさらに祝され、礼拝が豊かに捧げられることを願っています。

第11回全国礼拝音楽研修会 タイム・スケジュール

10:30 開会礼拝

10:50 基調講演 谷本 仰 南小倉教会牧師 ※基調講演録は次号で報告します。

12:00 分科会

- | | | |
|------------|------|--------------------|
| 1 会衆に仕える伴奏 | ピアノ | 麦野加恵（伊集院） |
| 2 会衆に仕える伴奏 | オルガン | 福田のぞみ（富野） |
| 3 子どもの賛美 | | 田中恵（田隈） |
| 4 礼拝 | | 谷本 仰（南小倉） |
| 5 礼拝の賛美歌選曲 | | 江原美歌子（相模中央、教会音楽室長） |
| 6 聖歌隊を始めよう | | 小松澤恵（大久保） |
| 7 キッズ・プレイズ | | 嘉手苺夏希（長崎） |

15:15 派遣礼拝



熊本愛泉教会



基調講演



派遣礼拝聖歌隊

礼拝プログラム

開会礼拝

司式	踊真一郎
指揮	小松澤恵
オルガン	福田のぞみ
ピアノ	麦野加恵

前奏

賛美 「喜びの歌を主に向かって歌え」（新生讃美歌46）

祈祷

聖書 詩編 42:1-6

黙想のとき

賛美 「キリスト教会の主よ」（新生讃美歌363）

後奏

オルガン

一 同

司会者

一 同

オルガン

派遣礼拝

司式	麦野達一
賛美指揮	小松澤恵
オルガン	福田のぞみ
ピアノ	麦野加恵

前奏		ピアノ
神からの招き	8番「主の呼びかけにわれらこたえ」1.2節	聖歌隊
交わりの賛美	369番「わたしたしはひとつ」	一同
祈り		
みことばを慕い求めて		
	132番「主よおことばをください」	一同
	134番「生命のみことばたえにくすし」1節 聖歌隊, 2.3.4節	一同
聖書		
メッセージ	濱田修三（熊本愛泉教会牧師）	
応答賛美	「礼拝に帰ろう」創作賛美歌	
	（ドボルザーク作曲『新世界』の「家路」にあわせて）	
	バイオリン〜キッズ・プレイズ〜子ども分科会〜会衆	
献金		
派遣の賛美	8番「主の呼びかけに」3.4節	
祝福の祈り		濱田修三
後奏		オルガン

分科会

① 会衆に仕える伴奏 ピアノ

麦野加恵（伊集院）

A. 内容

- ・ 会衆に仕える伴奏とは？

賛美の「言葉」を大切にし、言葉に適した音で会衆賛美を支え、助ける伴奏のことです。

その時、弾く者の手は神様を賛美し、証しするための道具になります。神様が弾く者の手を用いて下さるのです。上手、下手はあくまでも人間の評価です。安定した奏楽を支えるために懸命な練習は必要ですが、心を神様に向け、その時の最善をお捧げするとき神様は喜んでくださいます。

研修会では、そのように弾くにはどうしたらよいか、楽譜通りに弾けない時や楽譜の音符より音を加えたり減らしたり、アレンジはどのようにしたらよいかを分かち合いました。参加者のレベルはそれぞれ違いますし、教会の礼拝スタイルや人数も違いますので、各教会の礼拝の様子をお聞きした上で一人一人に実際に弾いてもらいました。他の参加者は歌詞をよく見ながら伴奏に合わせて賛美歌を歌い、弾き方や音の使い方などについて私からいくつかのアドバイスをさせていただきました。



教会が一体となる礼拝をつくるために、奏楽者は会衆の声（感想）を素直に聞き、息（呼吸）があうように色々工夫してみましょう。ピアノを一生懸命に練習することも大切ですが、いっぱいピアノで遊んで、音や弾き方を試してみたり、違う方の弾き方を真似したりしてみると、新しい発見があるかもしれませんね。奏楽者の皆さんの奉仕がこれからも豊かに用いられますように祈っています。

B. 気付かされたこと

- ・ 参加者皆さんが一生懸命でとてもうれしくなりました。三ヶ月かけて1つの賛美歌を練習し奉仕されている方がおられ、そのためにピアノのレッスンにも通っているとのことでした。その姿勢に頭が下がります。
- ・ 弾くことにばかり集中されている方が多かったようです。自分の弾いている音、会衆の声も聞けるようになればますます良くなると思いました。
- ・ 継続的な研修、レッスンが大切ですね。
- ・ 後継者の問題を抱えている教会も多いようです。礼拝をつくりあげるために、牧師をはじめ、教会員みんなで取り組んでいく課題だと思われています。

② 会衆に仕える伴奏（オルガン）

福田のぞみ（富野）

A. 内容

会衆に仕え、会衆の賛美を一つにまとめてリードする為に大切な以下のことを、実例を挙げながら説明しました。歌詞の内容を知る。作詞・作曲の年代、国、スタイルを知る。メロディーラインの熟知。各教会の事情や集会の規模による適切な速度の設定。フェルマータの扱い。フレーズ間、各節間の呼吸を会衆と共にする。長く伸ばす音の拍感の伝え方。イントロの役割、つけ方。歌に入る瞬間の呼吸の取り方に注意。節によって変わる語頭の位置に注目→歌詞の朗読、自ら歌詞で視唱。

そして以下の実際に伴奏を付ける際の注意点を確認しました。オルガンの長所、短所、ピアノとの違いを知る。譜面が合唱譜かピアノ譜かなどを知った上で、オルガンでの効果的な伴奏を考える。音が多く複雑な場合、自らの力に応じて適宜、音の増減を。節によるアレンジの変化（言葉を連想させる為、音色の変化、時には可能なら和音の変化も可）。ペダルつき電子（パイプ）オルガンでできる最大の可能性を探る。ピアノ向けの曲もオルガンで弾く可能性を探る。リードオルガンの特性を生かす。などです。その後、あらかじめ申告して頂いた一曲を全員の方に弾いて頂き、他の皆さんには賛美して頂きました。私がお一人お一人にコメントしながらその変化を皆さんで分かち合い、お互い弾く人の近くに寄ってなされていることを注意深く観察したり、まさにグループみんなで学び合う時間となりました。

B. 気づかされたこと

谷本先生の基調講演にあった大切なテーマ「呼吸」が、この分科会の学びのポイントの一つとなりました。賛美において私がもっとも大切に思っていることは「言葉」と「呼吸」です。そのことを再確認できた研修会でした。いつも最後は時間が足りなくなっていたので、今回は昼食時に自己紹介をしながら個々人の状況を語って頂き、あらかじめ一曲だけ弾きたい曲を選んで頂きました。それぞれ抱えている悩みの違う中、同じオルガンという楽器を用いて神と会衆に仕える者としての思いが通じ合い、共感し合えました。例年、私の進め方の悪さ



からその学びを全員で分かち合えているのだろうかと不安になっていましたが、今年は2時間の間一人も「部外者」とはならず、弾いている人の近くで覗き込んで観察する方もあり、皆が常にその時行われていることに集中してくださった時間でした。会衆あつての伴奏です。一人一人が他の方が弾いている時は会衆になりきり、その時に応じて具体的な感想も述べてくださいました。改めて会衆の気持ちを考えることの大切さに気づかされました。まだオルガンの弾き方がよくわからない方はピアノとの違いに戸惑われていることとお見受けしました。同じ鍵盤でも語法の違うピアノとオルガンです。今後も益々オルガンのもつ良さを生かして、さらに豊かな賛美を支えられるよう、私自身も皆さんと共に真摯に向き合っていきたいものです。

③ 子どものさんび

田中 恵（田隈）

A. 内容

I. さんびタイム（分科会「キッズ・プレイズ」の子どもたちも一緒に）

II. 「子ども」と「讃美」

1. 「子ども」について・・・「子ども」を取り巻く環境の変化／あなたの教会の「子ども」／皆さんの「子ども」の定義は？年齢によって配慮すべきことが変わってくる。
2. 「讃美」について・・・「主を讃美する」≠「讃美の歌をうたう」／「讃美歌」は讃美の道具

III. 教会での讃美の実際

1. 「主の祭り」としての礼拝 ～信仰継承の場～・・・「主の祭り」は みんなのもの／信仰を温め合い育て合う礼拝／説教中心でなくてもいい！／共同体の選び取り、その根拠は？
2. 大人と子どもと一緒に讃美する・・・「あなたの教会では何を使って讃美していますか？」／子どもは「礼拝者」。大人と一緒に礼拝するにあたってどんな配慮を必要としているか。／新生讃美歌を用いて／「こどもさんびか」を用いて
3. 子どもが讃美する・・・こども理解が変化している。「よい子」「正しい子」から「共に生きよう」「みんなで」へ／あなたの子ども理解、聖書理解、信仰が子どもたちに問われている。
4. 田隈教会の実践から なぜ子ども聖歌隊「ララ・クワイア」が始まったか。

IV. まとめ「教会の業となるために」

1. 目の前にいる子どもにしっかりと向き合い、愛し（＝大切にし）ましょう。
2. 「私たちの教会では特に礼拝において、子どもをどのようにとらえ、扱っているか」を見直しましょう。
3. 讃美について考えることは、礼拝を考えることです。
4. どのような礼拝をめざすのか、教会の皆さんと考えましょう。（教会の信仰告白、宣教理念）わたしたちの教会という信仰共同体の真ん中に、本気で礼拝を据えていきましょう！

B. 気付かされたこと

「子どものさんび」というテーマに思いが溢れ、お伝えしたいことをてんこ盛りに準備してしまいました。その結果、参加者の皆さんには消化不良を起こさせてしまっているに違いない…。半分くらいの内容にして、もっと参加者の皆さんの声を聞き、対話しながら進めればよかったなあと反省しています。

与えられた喜びが二つ。一つ目は参加者の皆さんとキッズ・プレイズの子どもたちが、派遣礼拝で前に立って賛美する時、短時間の準備にも関わらず、歌詞を覚え、顔を上げて素晴らし



い会衆讃美のリードをしてくださったこと、二つ目は分科会の結論として準備してきたことと、基調講演の内容とが響き合っていたことです。

各々の教会の礼拝で、子どもたちが生き生き賛美できることを祈っています。

⑤ 礼拝の賛美歌選曲

江原美歌子（相模中央）

A. 内容

全国礼拝音楽研修会はまさに「礼拝の賛美歌選曲」の課題からスタートしました。賛美歌を選曲するには、「礼拝」を学び合うことから始めることの大切さに気付かされたからです。分科会メンバーは、牧師先生、教会学校のリーダー、奏楽者、聖歌隊メンバーなど、多岐にわたった奉仕者で、それぞれに課題を持ちつつ、よりふさわしい賛美歌選曲があるのではないかと期待をもって集まった方々でした。分科会の導入では「礼拝の中での対話」「賛美による対話」、賛美歌には向けられる方向があることを中心に学んでいきました。その後、賛美歌の歴史を通して、各時代に生まれた賛美歌の神学、背景やその特徴、流れをとらえながら、選曲する方法も紹介していきました。後半は参加者へ事前に出されていた課題（宣教題、聖書箇所から具体的に賛美歌を選曲する）を分かち合い、それぞれの選曲の取り組みから学びあいました。バプテストの教会における賛美歌選曲には、いろいろな方法があることを共有しつつ、そのプロセスの中に、教会をつくりあげる働きが築かれていくことをあらためて確認しました。

B. 気付かされたこと

前半は講師からの発題、講義を中心にした内容としました。賛美歌を学ぶ資料や、機会が少ないことが憂慮される中、礼拝の基本とされる部分や、賛美歌の理解を深めていく必要を感じていたからです。また、それらに加えて、昨今の賛美歌の動向や、現在、起こされている賛美歌選曲の課題の部分では、多くの方が深くうなずきながら関心を寄せてくださいました。「新生讃美歌2003」発刊以降も、中長期大綱のあらたなテーマ「和解のつとめにつかえる」や、東日本大震災と原発問題、さらに様々に起こされる膨大な課題を前に、私たちは礼拝を捧げています。そして、今回研修会でも分科会で「子どもの賛美」をとりあげましたが、これからは次世代の子どもたちとともに礼拝することを大切にする中で、何を歌っていくのが問われていくのでしょうか。このような機会をきっかけとして、今後も近隣の教会の皆様がたと、選曲からいただいた課題を分かちあい、どの言葉で、どの視点で賛美歌を礼拝の中で歌っていくのか日々問いいただきながら、礼拝選曲にあたっていっていただきたいと願っています。各地で開催される礼拝、教会音楽研修会で、これからも大切にしていきたい学びとなっていくことを願っています。



⑥ 聖歌隊をはじめよう

小松澤 恵（大久保）

A. 内容

「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそあなたがたのなすべき礼拝です」ローマ12:1

聖歌隊の仕事は教会礼拝の手段であり、それは音楽的なことであっても、音楽的行為ではない。

聖歌隊の目的は、教会礼拝の目的にほかならず、まず自分自身を神に捧げていくことが大切。

1. 聖歌隊の働き

- ・主をほめたたえる
- ・宣教する。
- ・教会の礼拝を助け、会衆を支える

<参考・引用文献>

「キリスト者の礼拝」 p.296~308 セグラール&ブラッドリー著

「教会音楽ハンドブック I 改訂版」 日本バプテスト連盟 P.11~19

「教会の音楽シリーズIV 教会の音楽」 ヨルダン社

P.10~11、27~31 III 教会音楽の計画を始める、IV 教会音楽の活動

「聖歌隊の任務」 カール・ハルター著 P.10-16

(そのために礼拝の会衆賛美で歌う
ことになっている歌を練習時間の一部を割いて学ぶ必要もある)

礼拝者の模範—姿勢を示す(顔をあげる、声をだす、)準備、ひとつになることを示す⇒これらのことを理解すると、働きの意義は大きく教会員と神に対して大きな責任があることに気づく。

教会員全員が一つの大きな聖歌隊と考えることもできる。時間をかけて練習(訓練)することによって、2人、3人であっても聖歌隊をもつことができる。具体的な方法としては、たとえば①聖歌隊の伴奏譜面で、歌う(ユニゾンの場合、和声の変化などがあり効果的)②部分的にアカペラ(無伴奏)で歌う③男声、女声のみで歌う節を作る④『新生讃美歌』の中の転調を利用する。

2. なぜ歌うのか なぜキリスト者が終始一貫して礼拝に音楽を用いるのか。①詩編150編 ②歴大誌下5:13-14 ③マタイ26:30 コロサイ3:16 などの聖書箇所から考察。

3. 賛美曲

新生讃美歌134番「生命のみことば たえにくすし」、8番「主の呼びかけにわれらこたえ」

B. 気付かされたこと

聖歌隊の分科会は直前のキャンセルなどもあり、講師を含めて9名という少人数でした。しかし実際の教会の聖歌隊の現状に近い人数での学びが行えたことは有益であったと思う。少なめの人数だったのでお昼を食べながら自己紹介と教会の様子を分かち合い、よき交わりができた。

昼食後、ストレッチ、呼吸の練習、発声の後、派遣礼拝での聖歌隊賛美奉仕にむけて前記の新生讃美歌134番と8番を実際に歌う中での学びが主となった。最初は「自分」が、がんばって歌っていたお一人お一人。お互いの呼吸を合わせることを意識し、隣の人の声をよく聴き合い、互いの声に寄りそって、神さまからいただいた息をしっかりと使って歌うことでよいハーモニーに変化することを体験。普段、いかに「自分」が頑張っている隣の人の声が聞けていないか、息を使って歌えていないかに気づかれたと思う。基調講演で、『霊的な礼拝=原語「プネウマ」=風、息、いのち=息の通いあう礼拝』ということが語られたが、聖歌隊はまさにその働きの行為自体が「霊的な礼拝」なのだと参加者と共に分かちあった。

新生讃美歌134番「生命のみことば たえにくすし」は部分的に簡単な2声とカノンにコーラス編曲+ハーモニーアレンジした伴奏の譜面を準備。1節のみ聖歌隊で賛美したあと、続く会衆賛美の中においても会衆賛美をサポートしていける実践的なものを意識した。

交わりの中で「聖歌隊の練習時間の確保」が話題となった。今回学んだ「聖歌隊の働き」の大切さを教会の皆様と分かち合い、理解をいただき、祈って支えていただけるように願う。そして「霊的な礼拝」の一つの行為である聖歌隊の働きが諸教会で祝され豊かに用いられていくことを切に祈る。



⑦ キッズ・プレイズ

嘉手苺夏希（長崎）

A. 内容

今回、キッズ・プレイズの分科会を通して、子ども達と時間をともにできたことを嬉しく思います。小学生5人と幼児2人、大人3人という10名の分科会でしたが、一人ひとりとふれあうことのできた豊かな時となりました。

「賛美ってなんだろう？」と問いかけると「歌うことかなあ…？」と不安げに問い返す子ども達。「必ず歌わないといけないの？」「そしたら開会礼拝でささげられたホルンの演奏は…？」などなど、色々な方向から賛美について考えつつ、賛美とは“色々な伝え方があるけど、神様ってすごい！っていうことを神様に伝えること”と、分かち合いました。

『Stream of Praise』という賛美ミニストーリーの曲より「あふれる力」を歌って踊って賛美をしました。何色か用意していたポンポンの中で、自分の好きな色を選び、一緒に歌いながら踊りだすと、最初は恥ずかしそうにしていた子ども達の顔もだんだんとほころんできます。

最後はサプライズで、派遣礼拝の前に賛美をささげることになったのですが、恥ずかしがりながらも、賛美をささげてくれた子ども達の姿が印象的でした。

B. 気づかされたこと

講師として奉仕するにあたって、私自身の課題である「子ども達と一緒に賛美をすることを喜ぶ」をテーマとさせていただきました。神様に賛美をささげる喜び、そして、友達と一緒に賛美をささげる喜びを私も共に味わいたいと思ったからです。

言葉と踊りが結びついた時のパワーに驚きました。歌詞の中に「主イエスが生きてる 私のただ中に」という部分があります。自分で選んだ色のポンポンを持って、拳を突き上げる振り付けで歌い、踊ると、心の底から「そうだ！イエス様は今も私とともに生きておられるんだ！」という喜びが湧き上がってきました。自分では生み出すことのない喜びを感じました。歌をもって、賛美をささげることとはもちろんですが、体全部を使って神様を賛美することも素晴らしい!!と感じる時でした。

それぞれの教会でも、歌+踊りをもって、子ども達と共に賛美をささげるチャレンジをと願っています。子ども達にとっても、賛美の力を感じる時となると思いますし、大人にとっても新しい気持ちで、賛美をささげるきっかけになると感じています。



感想

① 会衆に仕える伴奏（ピアノ）

田中明子（相浦光教会）

まだ伴奏経験3回の超初心者、64歳の私は、自分の実技の順番をドキドキしながら待った。この分科会は講師の麦野加恵先生を中心に10人のグループで、一人ひとり実際にピアノを弾きながら、個人レッスンをしてくださるという形だった。初心者にも、奏楽奉仕20数年のベテランにも適切なアドバイスで、その場にいる全員に大いに役立つものだったと思う。研修会後の1月25日、私の4回目の奏楽奉仕では、「伴奏も証し。歌詞をよく理解して1番2番で強調する箇所が違ってよい。息を大切に。」等のアドバイスを早速取り入れてみた。一緒に研修に参加した方が、「違いがわかったよ。」と声を掛けてくれて、本当にうれしかった。音符を追うのに一生懸命、心の中で1・2・3と必死でリズムを保とうとしている段階の私に、「伴奏者があまりに一所懸命では会衆も疲れるから、細かなことを気にせず、伴奏することを楽しんで神さまに捧げましょう。」の麦野先生の言葉は、大変勇気づけられるものだった。他にも伝えたいことはたくさんあるが、字数が足りない。次回は是非、あなたも参加して！

② 会衆に仕える伴奏（オルガン）

東 愛（長住教会）

開会礼拝のキリストの恵みがぎゅっと詰まった長住記念歌（新生讃美歌46）の賛美からのスタートを感謝します。

谷本先生の基調講演を受けて、呼吸のこと、聖霊の礼拝のこと、あの人の声が聞こえるか、聞こえたらその人の声と合わせてみようと思うこと、同じタイミングで息を吐き、息を吸うとのことで、その重要性に私は同感致しました。

午後はオルガン分科会に参加させて頂き、言葉のフレーズに合わせてメロディーに間をあけたり、オルガンならではの指使いのことなど、たくさんを学びました。

兄弟姉妹の賛美をリードし、呼吸のことを再確認しながら奏樂を行えるよう祈り求め、イエス様から知恵を頂けたらと思います。そして、初めて会う兄弟姉妹と礼拝をもてたことを嬉しく思いました。どの礼拝にもイエス様が伴ってくださるので最高ですね。

③ 子どものさんび

中島 寿美香（佐賀教会）

ハレルヤ！主の御名を賛美いたします。研修会は湧き上がる賛美に恵まれ、喜びに満たされていました。

私が参加した「子どものさんび」は講師の田中恵先生が熱心に準備された学びの多い分科会でした。先生が工夫して子どもたちと関わっておられる、現在進行形のありのままの姿を紹介されました。具体的に子どもたちに賛美指導をデモンストレーションしてくださいました。この分科会のために、一生懸命私たちのために準備してくださった先生の真面目さが、主に従う忠実な弟子の姿と重なりました。主のみわざのために子どもたちにも一生懸命向き合っておられるのだらうと思いました。

私はC S小学科の教師をさせていただき、子どもたちと賛美する機会がよくあります。賛美するにあたり、子どもたちが心から主を賛美するように（賛美できるように）導いているのかと自問することが多くありました。子どもたちが元気に賛美することが私の自己満足に陥ってしまっているのではないだろうか。悩みながらも目の前にいる子どもたちとどう関わっていくか・・・、答えが明確になったわけではありませんが、何となく心が晴れていきました。自分の教会から出て行って、多くの同志との交わりはたくさんの元気をもらえました。

私の顔を見るたびに「れんしゅうしたい」と言ってくれる年中児のHちゃんに应运えて、今後は幼児聖歌隊を佐賀教会につくって育てていきたいと願いました。

④ 礼拝

広木愛（田隈教会）

谷本仰先生の基調講演をベースに話し合う分団になりました。賛美・礼拝だけにとどまらず、礼拝→食事→賜物→教会学校へと話の内容もどんどん変化していきました。分団に参加されていたそれぞれの教会の礼拝のあり方を振り返りながら、新しい礼拝のあり方（礼拝に食事や教会学校も含まれることができるのか等）、教会がだれの隣人になることができるのか、そしてその隣人のためになにができるのかを具体的に考えあうことができました。

愛餐会の持ち寄りの際、1人が教会員全員分の食事を作ると思うと気が重くなるけれども、自分が食べるおにぎり一個と、誰かおにぎりを忘れてしまうかもしれない誰かのための一個を持ってくるだけで、12のカゴがいっぱいになるくらいあまりがでるのではないかな。だれかのための一個のおにぎりを持ってくるということはとてもイエスさま的で、基調講演で谷本先生がお話しされていた、誰かと呼吸を合わせることによって繋がっていくことだと思いました。バプテストの



「礼拝に帰る」ということは、教会のみなで話し合いながら自分たちの礼拝を作っていくということだと再認識できました。最初の礼拝は、イエスさまの十字架を覚えるパン裂きだったということ覚え、晩餐式だけの礼拝もおもしろいのではないかという話にもなりました。是非やってみたい試みだと思います。今回の基調講演・分団の時間を神様に感謝します。

⑤ 礼拝の賛美歌選曲

小嶋智暁（大牟田教会）

昼食を取りながらの自己紹介で、多くの方が賛美歌選曲を課題としておられる事を知る事が出来ました。その中で始まった分科会、賛美歌の歴史をひもといていただきながら、賛美歌の作られた時代別に作者を知り、その特徴や背景、神学を通して選ぶ事や、福音唱歌、創作讃美歌など選び方を教えて頂きました。また、礼拝の流れにそって、賛美歌を選ぶ事ができる事も知る事ができました。教会暦と賛美歌選曲についても紹介され、今後の参考にしていきたいと思います。

また、あまり歌った事が無い賛美歌でも同じミーターの知っている曲で歌う事ができる事も知ることができました。最初から出来ないと思って取り組むのではなく、喜びをもって共に礼拝を形作っていきたいと思われました。

⑥ 聖歌隊を始めよう

浦川亮子（大分教会）

始まる前から小松澤恵先生の明るい雰囲気、場に既に柔らかく笑顔で分かち合いができました。各教会の聖歌隊の働きをお聞きして自分の教会の聖歌隊に思いを馳せ、心が熱くなっていくのを感じました。今回の聖歌隊のテーマは基調講演と同じく『息』、私たちは神様からいただいた息を意識して、隣の人の息を意識する事で声の一致を実感する事ができました。

声の一致は信仰の一致とも通じるところもあり、聖歌隊の分科会を通じて聖歌隊の事だけでなく色々な事を感じる事ができる素晴らしい分科会でした。

礼拝の中での聖歌隊の重要さも改め実感する事ができました。

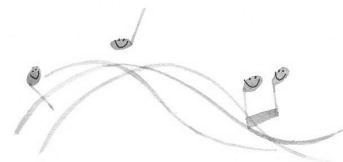
この素晴らしい学びが自分の事だけに終わる事なく教会に持ち帰り分かち合いたいと思います。

講師の先生のご準備を心から感謝します。わかりやすく深くこれからの指針になること間違いなしの分科会でした。

⑦ キッズ・プレイズ

麦野基和（伊集院教会）

ぼくはキッズプレイズに参加しました。参加者は幼児から小学校高学年で、ぼくはじゃんけんではきんちょうしましたが、後からだんだん楽しくなってきました。最初はみんなの仲が良くなるためにゲームをしました。輪になってとなりの人と手をつなぎ、強くギュッとにぎられたらすぐとなりの人に強くギュッとにぎるゲームでした。なんと記録は一周1秒ちょっとでした。そしてみんなの仲が良くなったところで、次は歌いました。みんなの歌声を聞いたらとっても上手ですごかったです。その後歌を少しずつ覚えていきました。この曲を「はけん」礼拝でひろうするのは分かっていたのですが、その歌にはなんとダンスがあったのです。正直ぼくははずかしいと思いました。その後は「子どものさんび」のみなさんと様々な賛美歌をうたってその中の1曲をはけん礼拝で歌いました。このように色々なことをしたり、歌ったりしてとても楽しかったです。



参加者アンケート

1. 礼拝・派遣礼拝

- 礼拝の最初から最後まで、オルガン、ピアノの奏楽に合わせて皆さんと共に賛美することができ感謝でした。
- 礼拝の多様性を学ぶことができました。
- 自分の教会での礼拝では経験できない、アレンジ、アイディア等、新鮮でした。
- たくさんの賛美歌、（派遣礼拝前に行われた）こどもたちの賛美とダンスに心が癒されました。
- 礼拝プログラムの中に「メディテーション」のときがあり、意味深かった。
- 神に、飢えかわいていた自分が叫び、求めています。神を求め、礼拝に帰ることを考えさせられました。「礼拝に帰ろう」という呼びかけや意味をもっと学びたいです。
- 豊かな礼拝を自分たちの教会らしくつくりあげていけたらと思われ、主にあってわくわくします。

2. 基調講演 次号のニュースレターでご紹介します。

3. 分科会

- オルガンの分科会に参加しました。自分では丁寧に弾いているつもりが、賛美歌の歌詞が伝わりにくい弾き方になっていることを知らされました。会衆が歌いやすい奉仕ができるよう努力していきたいです。
- 会衆賛美の伴奏の細かいところや、大きな所などたくさんのことを学びました。
- 時間を見つけてピアノに向き合い、会衆が歌いやすいように練習していきたいです。
- 呼吸、歌詞の内容との連動をよく考えて弾く大切さを学びました。
- 主に捧げるさんび、ということをしっかり覚えて奉仕していきたいと願われました。
- 教会学校で、子どもたちと歌うさんびについてたくさんのヒントを頂きました。まずは、私自身の賛美する姿勢を改めていこうと感じました。
- 子どもの立場に立って賛美指導について学ぶことができました。
- 「礼拝に行くことが楽しくて仕方ない」という教会作りに行きたいものです。
- 「食」に関して晚餐、交わり・・・そして信仰を表す方向をさぐっていきたいです。
- 抽象化ではなく具現化するためには？課題をいただきました。
- 賛美歌を通して、歴史や背景を知ることができました。具体的な選曲の実例も教えて頂き今後の曲選びの参考になりました。これからの礼拝形成に生かせそうです。
- 礼拝賛美=神賛美の学びを深めたいと思いました。
- 聖歌隊の分科会に参加しました。「うちの教会はムリ？」と思っていましたが身の丈にあうことからはじめてみようと思いました。ヒントを頂きありがとうございます。

4. 教会音楽室への要望、意見等

- 賛美して一体になる空気感、臨場感は礼拝に参加してこそ経験できます。参加できたことに感謝です。
- 奏楽レッスンを、教会（熊本）から近くで受けられたら嬉しいです。
- 「キッズプレイズ」がどんなものかよく分かりませんでした。事前にもう少し情報があると有難いです。

教会音楽室からのお知らせ

『新生讃美歌プレゼンテーション』をご活用ください。

2月18日の全国発送にて、各教会・伝道所に1部ずつ「新生讃美歌プレゼンテーション」DVDをお届けしました。内容は1)日本のバプテストの讃美歌ルーツ、2)日本バプテスト連盟結成後の讃美歌編纂の取り組み、3)創作讃美歌の取り組み、4)「新生讃美歌」(1989)の課題と「新生讃美歌2003」編集、5)「新生讃美歌2003」の特徴と課題、6)今後の推進の可能性について、です。

「新生讃美歌」の特徴を知ること、礼拝の中での讃美歌選曲の参考や助けとなり、また、礼拝讃美歌選曲の課題から、「礼拝」をあらためてとらえ直していくきっかけとなるでしょう。礼拝をたてあげる信徒の学び、会衆賛美の学び、聖歌隊、奏楽奉仕者の学びに用いていただき、賛美の学びを深めていただきたく願っています。また、「新生讃美歌2003」の課題があれば、お寄せいただきたくよろしくお願いいたします。

編纂の歴史紹介の中で、各歌集ごとに曲紹介をしていますので、DVDを止めて(PAUSEして)、実際に歌ってみることで「新生讃美歌」を味わうことができます。

ぜひご感想をお寄せください!

「奏楽者講習会」を開催しませんか?

「奏楽奉仕者がいない」「奏楽曲のレパートリーがない」「新曲を紹介してほしい」「奏楽者の掘り出し」「奏楽奉仕者を広げたい」等々、たくさんの教会から声をいただいています。2015年度はそのような声にお応えし、各地域・ブロック単位(2、3の教会単位)の要望を受けて、「奏楽者講習会」の開催を支援していくサービスを提供していきます。

講師は近隣の方か、近くの連合から派遣していく形をとり、1回だけの講習に終わることなく、長期にわたる関わりを願って、学びと励まし合いが継続できるように計画していきます。

●教会音楽室からの支援内容

- 1) 講師紹介
- 2) 講師交通費補助

●開催側での準備

- 1) 担当窓口・責任者の決定と、連盟教会音楽室への連絡
- 2) 日程、場所調整
- 3) 開催と受講者募集の呼びかけ
- 4) 講師、会場教会との連絡

●受講者参加費

担当窓口責任者との相談を経て決定し、講師謝礼や、会場費にあてていきます。

●楽器(オルガン・リード、電子、ピアノ、他)、レベル

参加者の要望に応じていきます。奏楽者としての奉仕の学びも大切にしていきます。

以上、どのようなご質問でも結構です。教会音楽室、江原048-883-1091(火、木曜日)、

ehara@bapren.jp(いつでも)までお問い合わせください。

